

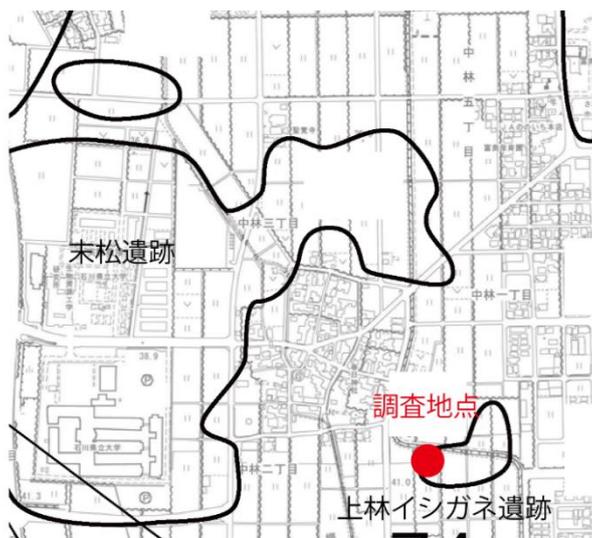
かんぼやし  
上林イシガネ遺跡

調査面積	546 m <sup>2</sup>
調査期間	令和5年7月11日～令和5年9月22日
遺跡の種類	集落跡
遺跡の時期	古代、中世
主な遺構	<small>ほったてばしらたてもの</small> 掘立柱建物、溝、土坑、小穴、自然流路
主な遺物	<small>はしき</small> 土師器、 <small>すえき</small> 須恵器、 <small>はくじ</small> 中国製磁器（白磁）、 <small>すずやき</small> 珠洲焼

## 概要

上林イシガネ遺跡は末松遺跡の南側に位置し、中林土地区画整理事業に先立つ試掘調査で発見された古代（奈良・平安時代）から中世（鎌倉・室町時代）の集落です。平成28・令和3年度に続き調査を実施しました。

令和5年度は、調整池造成範囲の発掘調査を実施しました。調査の結果、古代から中世の集落跡が見つかりました。調査区西側は近世（江戸時代）以降の自然流路であり、遺跡の縁辺部であることが明らかになりました。



遺跡の所在地



見つかった遺構の様子



土坑から見つかった土器